

2019 年交通事故二輪乗車中死者数

これは、「二輪車新聞」2020 年 4 月 24 日号に掲載された警察庁まとめによる標記記事の概要を紹介するものである。図は二輪車新聞社が作成したものを引用した。

1. はじめに

2019 年の二輪車乗車中交通事故死者数(24 時間以内死者数)は、前年より 103 人(16.8%) 下回り 510 人であった。3 年連続で減少し、10 年前の 6 割の水準である。内訳を見ると、原動機付自転車(以下「原付」という。総排気量 50CC 以下)が 149 人で前年より 63 人(29.7%)減、自動二輪車(以下「自二」という。同 51CC 以上)が 361 人で前年より 40 人(10.0%)減と、いずれも減少した。特に原付死者数の減少が大きな特徴である。年齢層別では、「原付が高齢者」「自二が中高年層と若年層」の事故が多い。これらの年齢層が注意することはもちろん、二輪初心者、四輪運転者、自転車、歩行者を含めた多角的・効果的な安全普及対策が重要である。

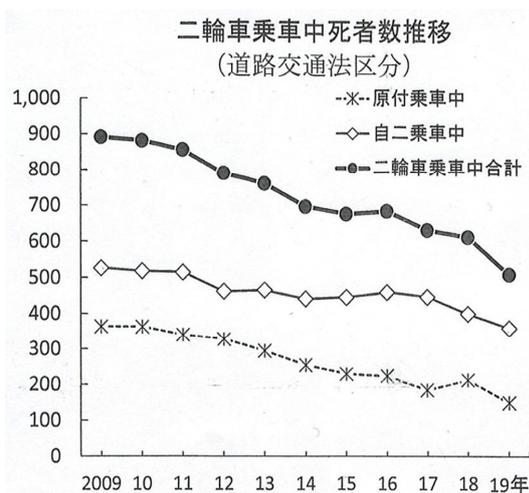


図1 二輪車乗車中死者数推移

2. 交通事故件数・死者数・負傷者数

2019 年中の交通事故件数は 381,237 件に留まり、前年比 49,364 件(11.5%)減と、15 年連続して減少した。このうち死亡事故件数は 3,133 件、前年比 316 件(9.2%)減と、4 年連続減となった。死者数は 3,215 人、前年比 317 人(9.0%)減で、4 年連続減となった。また、負傷者数は 461,775 人、前年比 64,071 人(12.2%)減で 15 年連続減となった。

3. 状態別死者数

交通事故死者数 3,215 人の内訳を状態別に見ると、歩行中 1,176 人、前年比 82 人(6.5%)減、構成率 36.6% 自動車乗車中 1,083 人、前年比 114 人(9.5%)減、構成率 33.7% 自転車乗車中 433 人、前年比 20 人(4.4%)減、構成率 13.5% 自二乗車中 361 人、前年比 40 人(10.0%)減、構成率 11.2% 原付乗車中 149 人、前年比 63 人(29.7%)減、構成率 4.6% その他 13 人、前年比 2 人(18.2%)増、構成率 0.4%であった。

原付乗車中は約 3 割もの下げ幅であり、10 年前(364 人)より 215 人(59.1%)も少ない。自二乗車中は 3 年連続減で、10 年前(527 人)より 163 人(31.5%)少ない。

4. 二輪乗車中死者数

原付乗車中死者数 149 人と自二乗車中死者数 361 人を加えると 510 人となり、初めて 600 人台を割り込んだ。前年比 103 人(16.8%)減で、3 年連続減となり、10 年前(891 人)から 381 人(42.8%)減と大幅な減少となった。千人を超えていた 2008 年(1,035 人)から 11 年でほぼ半減した。

5. 二輪乗車中月別死者数

原付乗車中死者数 149人を月別に見る。括弧内は前年同月比である。1月9人(4人)、2月12人(2人)、3月11人(6人)、4月9人(15人)、5月22人(+6人)、6月6人(2人)、7月12人(9人)、8月16人(7人)、9月13人(2人)、10月14人(5人)、11月14人(5人)、12月11人(12人)で、増加したのは5月のみであった。前年は4月が最多月であったが、2019年は5月が最多月となった。最少月は前年と同じく6月であった。

自二乗車中死者数 361人を月別に見る。括弧内は前年同月比である。1月25人(+8人)、2月11人(12人)、3月20人(9人)、4月46人(+11人)、5月29人(7人)、6月23人(10人)、7月21人(27人)、8月44人(+2人)、9月38人(+4人)、10月43人(+6人)、11月32人(2人)、12月29人(4人)であった。増加したのは1月、4月、8月、9月、10月の5か月であった。最多月は前年まで3年連続で8月であったが、2019年は11人も増えた4月となった。最少月は4年連続で2月であった。

二輪乗車中の合計死者数 510人を月別に見る。括弧内は前年同月比である。1月34人(4人)、2月23人(14人)、3月31人(15人)、4月55人(4人)、5月51人(1人)、6月29人(12人)、7月33人(36人)、8月60人(5人)、9月51人(+2人)、10月57人(+1人)、11月46人(+7人)、12月40人(16人)であった。最多月は前年が7月であったが、2019年は2年振りに8月となった。最少月は、前年は1月であったが、2019年は2月となった。

6. 年齢別死者数

原付乗車中死者数 149人を年齢層別に見る。括弧内は前年比である。10~14歳0人(1人)、15~19歳9人(12人)、20~24歳7人(1人)、25~29歳4人(7人)、30~34歳4人(2人)、35~39歳7人(+5人)、40~44歳4人(6人)、45~49歳13人(+4人)、50~54歳6人(7人)、55~59歳12人(+2人)、60~64歳9人(11人)、65~69歳15人(6人)、70~74歳12人(11人)、75~79歳18人(4人)、80~84歳16人(9人)、85歳以上13人(+3人)であった。65歳未満75人(36人)、65歳以上74人(27人)と、高齢者が5割を占めている。

自二乗車中死者数 361人を年齢層別に見る。括弧内は前年比である。10~14歳0人(1人)、15~19歳50人(2人)、20~24歳53人(+8人)、25~29歳18人(14人)、30~34歳17人(7人)、35~39歳16人(11人)、

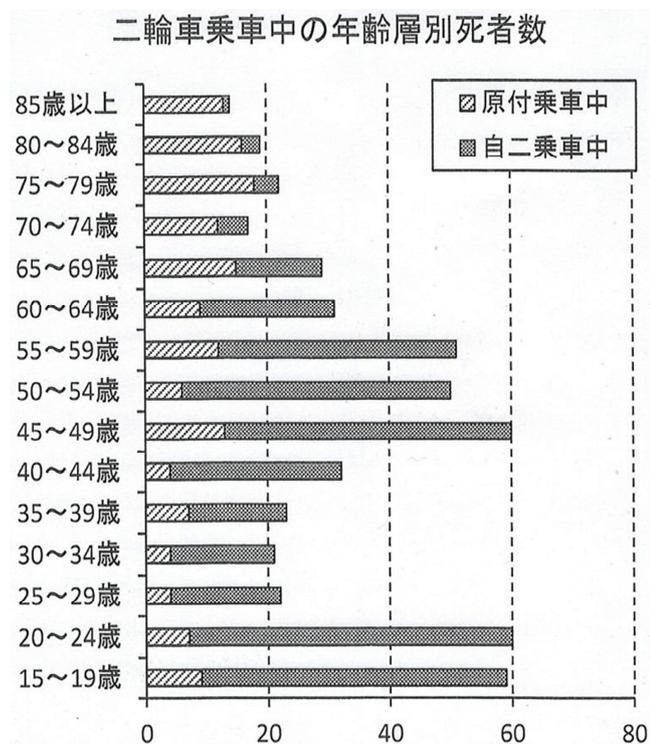


図2 二輪車乗車中の年齢層別死者数

40～44歳28人(+1人)、45～49歳47人(-6人)、50～54歳44人(+2人)、55～59歳39人(+6人)、60～64歳22人(-7人)、65～69歳14人(-1人)、70～74歳5人(-3人)、75～79歳4人(-4人)、80～84歳3人(-1人)、85歳以上1人(±0人)であった。65歳未満334人(31人)、65歳以上27人(-9人)と、原付と異なり高齢者は少ない。15～24歳の若年層は103人と多いが、やはり目立つのは40～50歳代の中老年層であり、158人と全体の43.8%を占める。

全二輪乗車中死者数 510人を年齢層別に見る。括弧内は前年比である。15～19歳59人(-14人)、20～24歳60人(+7人)、25～29歳22人(-21人)、30～34歳21人(-9人)、35～39歳23人(-5人)、40～44歳32人(-5人)、45～49歳60人(-2人)、50～54歳50人(-5人)、55～59歳51人(+8人)、60～64歳31人(-18人)、65～69歳29人(-7人)、70～74歳17人(-14人)、75～79歳22人(-8人)、80～84歳19人(-10人)、85歳以上14人(+3人)であった。65歳未満409人(-67人)、65歳以上101人(-36人)であった。

7. 昼夜別死者数

二輪乗車中死者数を昼間(日の出～日没)・夜間(日没～日の出)別に見ると、**原付乗車中死者数**149人のうち、昼間が96人(構成率64.4%)、夜間が53人(構成率35.6%)、**自二死者数**361人のうち、昼間が217人(構成率60.1%)、夜間が144人(構成率39.9%)であり、**二輪乗車中死者数合計**510人のうち、昼間が313人(構成率61.4%)、夜間が197人(構成率38.6%)と、昼間が6割強となっている。昼間は特に通勤時や帰宅時が多く、早朝や薄暮時の対策が重要なポイントといえる。

8. 車両法分類別1当死亡事故件数

二輪車 第1当事者(以下「1当」という。最も過失の重い者)別死亡事故件数346件(前年比60件、14.8%減)を**道路運送車両法**に基づく排気量別で見ると、多い順に 小型二輪(251CC以上)115件(11件、8.7%減)、原付一種(50CC以下)101件(40件、28.4%減)、原付二種(51～125CC)71件(2件、2.9%増)、軽二輪(126～250CC)59件(11件、15.7%減)と、小型二輪は3年連続減、原付一種は7年連続減、軽二輪は2年振り減、原付二種は2年振り増であった。

前年まで最上位であった原付一種は大幅減となり、小型二輪が最多となった。10年前との比較では、原付一種の146件、59.1%の減が最も顕著であった。

二輪車・1当死亡事故件数のうち、**高速道路**での件数は26件(構成率17.3%)、前年比3件(13.0%)増で、2013年以降毎年20件以上で推移している。このうち小型二輪は21件、前年比3件(16.7%)増で、軽二輪は前年と同じ5件であった。

二輪車 第1当事者別 死亡事故件数
年別推移 (道路運送車両法区分)

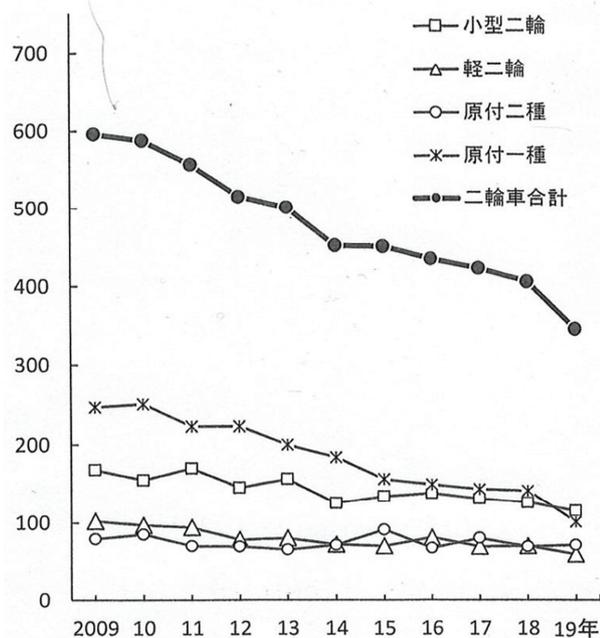


図3 二輪車 第1当事者別 死亡事故件数

9. 致命傷部位別死者数・損傷部位別負傷者数

二輪車乗車中死者数 501 人を致命傷別に多い順に見る。括弧内は構成率である。

頭部 195 人(38.2%) 胸部 153 人(30.0%) 全損(損傷が多数あり、致命傷が複数ある場合)41 人(8.0%) 腹部 33 人(6.5%) 頸部 27 人(5.3%) 腰部 23 人(4.5%) 脚部 13 人(2.5%) 顔部 11 人(2.2%) 背部 3 人(0.6%) 腕部 1 人(0.2%) となっている。その他は 10 人(2.0%)であった。

頭部と胸部で依然、約 7 割の高い割合を示しており、ヘルメットの正しい着用と胸部プロテクターの着用が一層促進されることが期待される。

以上